

これからはチボリの森をよろしく

～養護老人ホーム恵寿園引継式～

3月31日(月)、養護老人ホーム恵寿園で『恵寿園引継式』(市主催)が行われました。

恵寿園は、昭和49年5月1日に開園し、現在56人の方が入園していますが、施設の老朽化が進み、入園者の生活環境の向上を図るため、4月1日から社会福祉法人彩咲会に運営を移譲することにしました。

施設名は新たに『チボリの森』として現在の施設で運営され、平成22年に富岸町へ移転する予定です。

引継式では、上野市長と彩咲会の石井理事長による引継書の受け渡しが行われました。

上野市長は、「恵寿園は開設以来延べ600人に入園いただきました。運営と皆さんのお世話をよろしく申し上げます」と述べ、石井理事長は「これまで市がやってきたことに負けないように、しっかりと皆さんのお世話をさせていただきます」とあいさつしていました。



捕れたての魚介類でまち興し

～登別海鮮直市～



3月23日(日)、今年で3年目を迎えた登別海鮮直市(登別まちづくり促進期成会主催)が登別駅前スタートしました。

この催しは、安全・安心な食の提供が求められる中、登別漁港で水揚げされた新鮮な魚介類を、市民や観光客に格安な値段で提供するまちづくりのイベントとして行われています。

この日は、サクラマスやマダラ、カレイ、タコのほか、トレーの中で暴れるほど生きがよいボタンエビや南蛮エビが提供され、集まった多くの市民や観光客は列を成して買い求めていました。

今年の海鮮直市は、『登別漁港市直鮮』と書かれたのぼりを立てて、10月までの日曜日の10時からしけの日を除いて毎週行われます。

丈夫にたくましく育つように

～大空を泳ぐこいのぼりと五月人形展～

4月1日(火)から、郷土資料館で色とりどりのマゴイやヒゴイなど約70匹のこいのぼりが掲げられ、道行く人の目を楽しませています。

こいのぼりは、市民から寄贈を受けたものが中心。5月5日のこどもの日を前に、郷土資料館ボランティアグループSLGの協力を得て、毎年この時期に掲げられています。

また、郷土資料館内では、五月人形展が開かれ、市民から寄贈された五月人形9点が展示されています。昭和初期製作のものをはじめ、金太郎や桃太郎などと一緒に飾られているものもあり、来場者は興味深く観察していました。

こいのぼりと五月人形は、5月5日(月)まで見ることができます。

なお、郷土資料館では、こどもの日にちなみ、5月5日(月)まで、小・中学生の入館料を無料にしています。

